First Hit

Previous Doc

Next Doc

Go to Doc#

Generate Collection

Print

L6: Entry 1 of 2

File: JPAB

Feb 19, 2002

PUB-NO: JP02002053321A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002053321 A

TITLE: LITHIUM MANGANESE MULTIPLE OXIDE, ITS MANUFACTURING METHOD AND USE THEREOF

PUBN-DATE: February 19, 2002

INVENTOR - INFORMATION:

NAME

COUNTRY

MASHIMA, HIROSHI SANUKI, SUMIKO KUBOTA, MAMORU NAKAHARA, KIYOSHI

NAKAJIMA, RYOSUKE

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

TITAN KOGYO KK

APPL-NO: JP2000238020 APPL-DATE: August 7, 2000

INT-CL (IPC): C01 G 45/00; H01 M 4/02; H01 M 4/58; H01 M 10/40

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain lithium manganese multiple oxide having a cluster particle form and a dense and uniform composition excellent in packing property as an electrode active material, to provide a method for manifesturing the oxide at a low cost without processes of pulverization or repeated heat treatment, to obtain a positive electrode material by using the lithium manganese multiple oxide, and to provide a high-performance lithium secondary cell by using the positive electrode active material.

SOLUTION: The lithium manganese multiple oxide has a secondary particle form prepared by aggregating almost spheric primary particles essentially comprising LiMn2O4 into clusters. The median diameter of the secondary particle form ranges from 1 to 100 μ m and the specific surface area is 0.1 to 10 m2/g. The obtained particles are used as the positive electrode active material to manufacture a lithium secondary cell.

COPYRIGHT: (C) 2002, JPO

Previous Doc Next Doc Go to Doc#

First Hit

Previous Doc

Next Doc

Go to Doc#

End of Result Set



L6: Entry 2 of 2

File: DWPI

Feb 19, 2002

DERWENT-ACC-NO: 2002-387576

DERWENT-WEEK: 200242

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Lithium manganese complex oxide used as active material for secondary battery, contains aggregated primary particles and secondary particles containing lithium manganese oxide of specific diameter and surface area

PATENT-ASSIGNEE:

ASSIGNEE

CODE

TITANIUM KOGYO KK

TITAN

PRIORITY-DATA: 2000JP-0238020 (August 7, 2000)

Search Selected 🚐

Search ALL

Clear

PATENT-FAMILY:

PUB-NO

PUB-DATE

LANGUAGE

PAGES

MAIN-IPC

JP 2002053321 A

February 19, 2002

008

C01G045/00

APPLICATION-DATA:

PUB-NO

APPL-DATE

APPL-NO

DESCRIPTOR

JP2002053321A

August 7, 2000

2000JP-0238020

INT-CL (IPC): C01 G 45/00; H01 M 4/02; H01 M 4/58; H01 M 10/40

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2002053321A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - Lithium manganese complex oxide contains grape cluster shaped aggregated primary particles and secondary particles mainly containing LiMn2O4 of diameter 1-100 mu m and specific surface area of 0.1-10 m2/g.

DETAILED DESCRIPTION - INDEPENDENT CLAIMS are also included for the following: (i) Manufacture of lithium magnesium complex oxide which involves wet blending epsilon manganese dioxide with a water-soluble lithium compound in a Li/Mn molar ratio of 0.50-0.60. The mixed solution is dried and heat-processed at 500-900 deg. C so that the complex oxide particles are held together. epsilon manganese dioxide mainly contains epsilon MnO2 crystalline form confirmed by X-ray diffraction. The dioxide comprises grape cluster shaped aggregated particle of specific surface area 100-300 m2/g and particle diameter of 50 mu m or less; (ii) Battery anode comprising the lithium manganese complex oxide as positive electroactive material; and (iii) Lithium secondary battery having initial stage electric discharge capacitance of 120 mAh/g or more and rate of 20 cycle of discharge capacitance exceeding 80%.

USE - Used as active material for lithium secondary battery.

ADVANTAGE - Lithium secondary battery of high performance is obtained. The complex oxide has minute and uniform composition and excellent packaging property. The method of packing the

oxide as electroactive material is economical.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the X-ray diffraction of manganese oxide. (Drawing includes non-English language text).

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/5

TITLE-TERMS: LITHIUM MANGANESE COMPLEX OXIDE ACTIVE MATERIAL SECONDARY BATTERY CONTAIN AGGREGATE PRIMARY PARTICLE SECONDARY PARTICLE CONTAIN LITHIUM MANGANESE OXIDE SPECIFIC DIAMETER SURFACE AREA

DERWENT-CLASS: E31 L03 X16

CPI-CODES: E35-S; L03-E01B5A; L03-E01B5B;

EPI-CODES: X16-E01C1; X16-E01G; X16-E08A;

CHEMICAL-CODES:

Chemical Indexing M3 *01*
Fragmentation Code
A103 A425 A940 C108 C550 C730 C801 C802 C803 C804
C805 C807 M411 M720 M904 M905 N104 N513 N514 N515
Q454
Specfic Compounds
A3TEYK A3TEYP

Chemical Indexing M3 *02*

Fragmentation Code
A103 A425 A940 A980 C108 C550 C730 C801 C802 C803
C804 C805 C807 M411 M720 M904 M905 N104 N513 N514
N515 Q454
Markush Compounds
200063-55301-K 200063-55301-P

Chemical Indexing M3 *03*
 Fragmentation Code
 A425 A940 C108 C550 C730 C801 C802 C803 C804 C805
 C807 M411 M730 M904 M905
 Specfic Compounds
 01936K 01936S
 Registry Numbers
 1936S 1936U

UNLINKED-DERWENT-REGISTRY-NUMBERS: 1936S ; 1936U

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C2002-109462 Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2002-303692

Previous Doc Next Doc Go to Doc#

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-53321

(P2002 - 53321A)

(43)公開日 平成14年2月19日(2002.2.19)

(51) Int.Cl.'		識別記号	ΡI		Ť	·-マコード(参考)
C 0 1 G	45/00		C01G	45/00		4G048
H01M	4/02		H01M	4/02	C	5 H O 2 9
	4/58			4/58		5 H O 5 O
	10/40			10/40	Z	

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全 8 頁)

(21)出願番号	特厨2000-238020(P2000-238020)	(71)出願人 000109255
		チタン工業株式会社
(22)出顧日	平成12年8月7日(2000.8.7)	山口県宇部市大字小串1978番地の25
		(72)発明者 真嶋 宏
		山口県宇部市大字小串1978番地の25 チタ
		ン工業株式会社内
		(72)発明者 佐賀 須美子
		富山県射水郡小杉町中太岡山5丁目16番地
		(72)発明者 久保田 守
		山口県宇部市大字小申1978番地の25 チタ
		ン工業株式会社内
		(74)代理人 100089705
		弁理士 社本 一夫 (外4名)
		最終質に続く

(54) 【発明の名称】 リチウムマンガン複合酸化物及びその製造方法、並びにその用途

(57)【要約】

【課題】 電極活物質として充填性に優れた緻密かつ均一な組成を有する葡萄房状の粒子形状をもつリチウムマンガン複合酸化物、これを粉砕工程や繰り返し熱処理工程無しに安価に製造する方法、及び該リチウムマンガン複合酸化物を用いた正極活物質、並びに該正極活物質を用いた高性能なリチウム二次電池を提供する。

【解決手段】 本発明に関わるリチウムマンガン複合酸化物は、 $LiMn_2O_4$ を主成分としほぼ球形の一次粒子形状を葡萄の房状に集合させた二次粒子形状を有し、該二次粒子形状のメジアン径が $1\sim100~\mu$ m、比表面積が $0.1\sim10~m^2/g$ である。これを正極活物質として使用してリチウム二次電池を製造する。

(2)寺開2002-53321 (P2002-53321A)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 主成分がしiMn2O3であり、ほぼ球形 の一次粒子形状を葡萄房状に集合させた二次粒子形状を 有し、該二次粒子径が1~100 μm、比表面積が0. 1~10m²/gであることを特徴とするリチウムマン ガン複合酸化物。

【請求項2】 前記一次粒子径が0.1~0.2 μmで あることを特徴とする請求項1に記載のリチウムマンガ ン複合酸化物。

【請求項3】 X線回折法による結晶形 ε-MnO₂を 主成分とし、比表面積100~300m²/g、粒子径 50μm以下の葡萄房状の二次粒子形状を有するε-二 酸化マンガンと、水溶性リチウム化合物とをLi/Mn のモル比0.50~0.60で湿式混合する工程と、該 混合液をリチウムマンガン複合酸化物の前記粒子形状が 保持されるように乾燥した後、500~900℃で熱処 理する工程とからなることを特徴とするリチウムマンガ ン複合酸化物の製造方法。

【請求項4】 請求項1又は2に記載のリチウムマンガ ン複合酸化物、または、請求項3に記載の製法により得 20 られたリチウムマンガン複合酸化物を正極活物質として 用いた電池用正極。

【請求項5】 請求項1又は2に記載のリチウムマンガ ン複合酸化物、または、請求項3に記載の製法により得 られたリチウムマンガン複合酸化物を正極活物質として 用いたリチウム二次電池。

【請求項6】 少なくとも初期放電容量が120mAh /g以上、又は20サイクル目の放電容量維持率が80 %を越えたコイン電池であることを特徴とする請求項5 に記載のリチウム二次電池。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、リチウム二次電池 の活物質として有用なリチウムマンガン複合酸化物及び その製造方法並びにそれを用いたリチウム二次電池に関 するものである。

[0002]

【従来の技術】リチウムマンガン複合酸化物であるマン ガン酸リチウムは、一般式LixMnvOaで表され、代 表的なものとしてスピネル構造のLiMngO」がある。 このLiMn2Oaは原料Mnの資源としての埋蔵量がC oより多いことから安価なリチウム二次電池用正極材料 として注目されている。

【0003】スピネル構造のLiMn₂O。は、層状構造 のリチウムコバルト酸化物やリチウムニッケル酸化物に 比べて理論密度が小さく、理論電気容量が小さい。この 点で高容量電池の活物質としてはリチウムコバルト酸化 物やリチウムニッケル酸化物と比べ不利である。そこ で、LiMn₂O₄の充填性を上げるため、合成原料には 一般的に固相反応での合成では、均一組成の合成物を得 るには緻密でない微細な原料を使用する方が有利とされ ている。

【0004】この様な観点から、LiMn₂O₄の合成に おいては、緻密で粒子の大きいマンガン化合物を原料と し、熱処理や機械的粉砕を繰り返すことで、充填性が高 く、組成も均一なLiMn2O4を得る方法が用いられて いる (例えば特開平8-2921号公報)。

【0005】しかしながら、従来の製造方法により得ら 10 れるマンガン酸リチウムは形状が不均一となり、流動性 が悪く緻密なしiMn2Oa電極層を得ることが難しい。 また、電極作製時の導電剤や結着剤との混合時のハンド リングが悪く、均一な混合が困難である。

【0006】一方、LiMn₂O₂は、Mn³⁺のヤーンテ ラー効果による相転移が原因と考えられるサイクル特性 の悪さ、高温におけるMnの電解液への溶出等の問題が ある。これらの改善を目的にMnの異種元素置換が提案 されている(例えば特開平11-71115号公報)。 【0007】異種元素置換マンガン酸リチウムはヤーン テラー歪みの抑制及びMnの溶出量を減少し、サイクル 特性を改善するが、このためにはより均一組成であるこ とが要求される。

[0008]

【発明が解決しようとする課題】本発明は、電極活物質 として充填性に優れた緻密かつ均一な組成を有する葡萄 房状の粒子形状をもつリチウムマンガン複合酸化物、こ れを粉砕工程や繰り返し熱処理工程無しに安価に製造す る方法、及び該リチウムマンガン複合酸化物を用いた正 極活物質、並びに該正極活物質を用いた高性能なリチウ ム二次電池を提供することを課題とする。

[0009]

40

【課題を解決するための手段】本発明者らは上記目的を 遊成すべく鋭意研究を重ねた結果、LiMn₂O₄の合成 原料として一般的に使用されている y - M n O2や二酸 化マンガンを熱処理して得られるMngOsに代えて、比 表面積が100~300m~/gで平均二次粒子径が5 Oμm以下の葡萄房状の粒子形状を有するε-MnOa と、水溶性リチウム化合物とを混合し、特定の方法で生 成したリチウムマンガン複合酸化物が特定の形状、寸法 を有する二次粒子を形成し、このような葡萄房状で特定 の粒度を有するリチウムマンガン複合酸化物が電極作製 時の操作性等に優れ、かつ該リチウムマンガン複合酸化 物を使用した非水溶媒系リチウム二次電池が優れた充・ 放電特性を示すことを見い出し、本発明を完成させた。 【0010】すなわち、本発明のリチウムマンガン複合 酸化物は、主成分がLiMn₂Оュであり、ほぼ球形の一 次粒子形状を葡萄房状に集合させた二次粒子形状を有 し、該二次粒子径が1~100μm、比表面積が0.1 ~10m²/gであることを特徴とする。本発明のリチ 緻密な酸化マンガンが使用されてきた。しかしながら、 50 ウムマンガン複合酸化物において、前記一次粒子経が

3

0. 1~0. 2 μ m 近傍であるとよい。

【0011】また、本発明の製造方法は、X線回折法による結晶形 ϵ - M n O_2 を主成分とし、比表面積 100~300 m^2 / g、粒子径 50 μ m以下の葡萄房状の二次粒子形状を有する ϵ - 二酸化マンガンと、水溶性リチウム化合物とを L i / M n のモル比 0.50~0.60で湿式混合する工程と、該混合液をリチウムマンガン複合酸化物の前記粒子形状が保持されるように乾燥した後、500~900℃で熱処理する工程とからなることを特徴とする。

【0012】また、本発明に係るリチウムマンガン複合 酸化物を正極活物質として用いて充・放電特性の優れた 電池用正極を作製することができる。

【0013】さらに、前記正極活物質を用いてリチウム 二次電池を作製することができ、コイン電池にあって は、少なくとも初期放電容量が120mAh/g以上、 又は20サイクル目の放電容量維持率が80%以上であ る非水溶媒系リチウムイオン二次電池を作製することが できる。

[0014]

【発明の実施の形態】本発明のリチウムマンガン複合酸化物の化学組成は、主成分が $LiMn_2O_4$ からなることを特徴とするが、これは、粉末を使用したX線回折図のピークがJCPDS (Joint committee on powder diff raction standards) : No.35-782に示される $LiMn_2O_4$ と一致し又は同等であればよい。

【0015】また、本発明のリチウムマンガン複合酸化 物は、主成分を前記LiMn₂O₃とし、その形態は1 μ mに満たない微細な一次粒子が二次粒子径(メジアン 径) で1~100 µmmの集合単位を形成している。こ 30 れを電子顕微鏡等で観察すれば、各一次粒子は均質なほ ぼ球形を維持しつつ集合体である二次粒子形状において も粒の揃った葡萄房状の適宜な結合状態を有することが 判る。すなわち、粒径の均一な一次粒子が適宜な数で集 合することにより、二次粒子は粒度分布の良い均一な粒 子径で、均質且つ自然な房形状となっている。この房形 状の基となる一次粒子は粒径 (メジアン径) が 0.1~ 0. 2μm程度の微粒子であることが好ましい。このよ うな房形態の性状により、電池の正極活物質として用い る場合において、充填性に優れ、従来における粒子形状 40 や粒子径 (一次粒子又は二次粒子) が不揃いのものに比 べて緻密な活物質層を形成できる。また、ハンドリング が良好で、導電剤や結着剤との混合が均一となる。充填 性やハンドリングの向上には主に、粒度分布の良い二次 粒子径を有すること及びその形状が葡萄房状であること が寄与する。

比表面積が小さいリチウムマンガン複合酸化物は電池活物質としての使用時に充放電容量が大きく、サイクル特性に優れた二次電池を得ることができる。二次粒径は1~100μmに分布してよいが、その分布範囲が狭く1~70μmに分布することがより好ましい。

【0017】本発明のリチウムマンガン複合酸化物の製造方法は、特定の粒形状を有する。一二酸化マンガンと水溶性リチウム化合物を所定の割合で湿式混合し、該混合物を、原料の前記二酸化マンガンの粒形状を維持して10 乾燥した後、熱処理することを特徴とする。

【0018】前記 ε - 二酸化マンガンは、X線回折法に よる結晶形が ε - Mn O₂であり、具体的にはX線回折 図のピークがJCPDS:No、30-820に示され る ε-MnOzに一致し又は同等であればよい。つま、 り、本発明の製法は、従来のLiMngOaの合成原料と して使用されている電解合成法及び化学合成法によるッ -MnO₂や二酸化マンガンを550℃以上の温度で熟 処理して得られるMn2O3を原料としたものではない。 【0019】また、前記 εー二酸化マンガンは、比表面 積が100~300m²/g、好ましくは150~20 Om²/gであり、平均二次粒径が50μm以下、好ま しくは30μm以下である。比表面積が100m²/g 未満では水溶性リチウム化合物との湿式混合時に不均一 な部分が生じること、及び生成LiMn2O4の形状が葡 萄房状を維持できなくなり、本発明の目的とする均一組 成を持つリチウムマンガン複合酸化物を得ることができ ない。一方、比表面積が300m²/gを超えると飛散 等で取り扱い難くなり、製造上好ましくない。また、平 均二次粒径が50μmを超える物を使用すると水スラリ 一中でマンガン化合物の沈降分離を起こさないために、 より強力な撹拌あるいは粉砕工程が必要となり好ましく

【0020】前記ε-二酸化マンガンは、代表的には硫酸マンガン水溶液に酸素を含むオゾンガスを通気してMnイオンを酸化することにより沈曖を生成させ、該沈酸を3別、水洗、乾燥することにより作製できる。

【0021】本発明に用いる水溶性リチウム化合物としては、炭酸リチウム、水酸化リチウム、水酸化リチウム 1水塩等を挙げることができるが、水への溶解度の大きい水酸化リチウム又は水酸化リチウム1水塩がより好ましい。

【0022】前記を一二酸化マンガンと水溶性リチウム化合物の混合比は、Li/Mnのモル比で0.50~0.60であり、好ましくは0.51~0.55である。0.50未満の場合、リチウム二次電池としたときの充放電容量のサイクル劣化が大きく、良好な電池特性を示さない。この理由は第3成分添加によるサイクル特性の改善に報告されている様に第3成分としてLiが作用しているためと考えられる。また、Li/Mnのモル比が0.60より大きい場合はLiMn。O。以外の生成

物、例えばLi₂Mn O₃が生成し、Li Mn₂O₄の鈍分 が低下し、電池容量の低下原因となり、好ましくない。 【0023】湿式混合液のスラリー濃度はLi原料が 0. 48~4. 8mol/L、Mn原料が0. 50~1 0. 0mol/Lでよい。前記範囲より濃度が高いと均 一混合に強い撹拌力が必要となる。又、乾燥時の配管閉 塞のトラブル原因となり好ましくない。前記範囲より濃 度が低いと蒸発水分量が増加し、乾燥コストが上がり好

【0024】前記乾燥方法は噴霧乾燥、流動屬乾燥、転 10 動造粒乾燥、あるいは凍結乾燥を単独又は組み合わせて 使用できる。乾燥物を大気中で熟処理する。熱処理は5 00~1000℃の温度で一度の熱処理で良いが、より 好ましくは700~850℃がよい。500℃未満では マンガン化合物とリチウム化合物の反応が十分でない。 1000℃を越えた場合、焼結が起こり本発明の二次粒 子形状が保てなくなり、電池特性の悪いものになってし まう。

【0025】上記により合成したリチウムマンガン複合 酸化物を正極活物質として使用して電池用正極とし、負 20 打ち抜き後、図4に示すコイン電池の正極4とした。 極としてしi金属を使用してリチウム電池を作製した場 合は後述するように、充・放電での電圧が3.9~4. 1 Vを有し、120mAh/g以上の初期放電容量を有 し、20サイクル目の容量劣化が20%以下のリチウム 二次電池を得ることができる。

[0026]

【実施例】本発明の実施例及び比較例を図面を参照しな がら説明するが、本発明はこの実施例に限定されるもの ではない。なお、反応生成物の同定及び結晶構造はX線 回折 (RIGAKU Cu-Ka 50kV 200m 30 A) により調べた。粒子の形状は走査型電子顕微鏡(日 本電子製)により観察し、粒度分布はレーザー回折・散 乱法(HONEYWELL社 マイクロトラック粒度分 - 布計)により測定した。又、比表面積はBET一点法に より測定した。

[0027]

【実施例1】0.1mol/L硫酸マンガンおよび、 0. 5 m o l / L 硫酸を含む水溶液を 3 0 ℃の恒温槽内 にいれ、オゾン濃度が20g/Nm³のオゾンを含む酸 素ガスを5.5時間通じ、酸化反応を行った。得られた 40 固形物をろ過後、水洗し110℃で乾燥した。図1はX 線回折図を示す。生成物はJCPDS:No. 30-8 20のε-Mn Oaと同様の回折パターンを示した。比 表面積は174m²/gで、粒度分布測定より求めたメ ジアン径は21μmであった。EDTA法により、Mn 含有量を分析した結果、Mn含有量は54.6%であっ

【0028】上記ェーMnO₂と2.86mo1/Lの LiOH・HaO水溶液をLi/Mnモル比0.515 で湿式混合した。混合物を110℃で喧囂乾燥した後、 該乾燥物を大気中850℃で6時間熱処理し、リチウム マンガン複合酸化物を作成した。

【0029】この試料に対し、Cuをターゲットとした X線回折、比表面積の測定および走査型電子顕微鏡写真 の撮影を行った。図2はX線回折図を示す。生成物はJ CPDS:No. 35-782のLiMn₂O₄と同様の 回折パターンを示した。比表面積は1. 9 m²/gであ り、メジアン径は19μmであった。図3は生成物のS EM写真を示す。SEM写真より生成物の二次粒子形状 は葡萄状であることが判る。

【0030】次に上記乾燥焼成未粉砕物を活物質として 正極電極合剤を作製した。活物質として得られたリチウ ムマンガン複合酸化物82重量部と、導電助剤としてア セチレンブラック9重量部と、結婚剤としてフッソ樹脂 9 重量部を、溶剤として n ーメチルー 2 ーピロリドンを 用い混合した。上記電極合剤をドクターブレード法でア ルミ箔へ乾燥後の重量が0.01g/cm²となるよう に塗布した。150℃で真空乾燥後、初期電極合剤の厚 みに対し80%にロールプレスした。1 c m2の面積で

【0031】図4において、負極5は金属しi板を、電 解液はエチレンカーボネートとジメチルカーボネートの 等容量混合物にLiPFeを1mol/L溶解させたも のを、セパレーター6はポリプロピレン多孔膜を使用し た。正極、負極をそれぞれ収容した正極ケース2. 負極 ケース1を含めた電池全体の大きさは外形約20mm、 高さ約3mmであった。

【0032】上記により作製したコイン電池を用いて電 流密度0.2mA/cm²の定電流で4.3Vまで充電 し、さらに定電圧で電流値が1 μ A以下になるまで充電 し、その後、3.0 Vまで放電した。このサイクルを2 0回繰り返した。図5(実線)は、本実施例のリチウム マンガン複合酸化物を正極活物質とし、Li金属を負極 としたコイン電池の充・放電曲線を示す。これより、本 実施例のコイン電池は、1サイクル目の放電容量は12 7mAh/gであり、20サイクル目の放電容量は12 OmAh/gで、放電容量維持率は94%であった。 [0033]

【比較例】電解法二酸化マンガンをMn源とする以外は 実施例1と同様の手法で合成を行った。使用した電解法 二酸化マンガンは、JCPDS:No. 14-644の y-MnOcと同様の回折パターンを示した。比表面積 は47m²/gで、粒度分布測定より求めたメジアン径 は3. 5 µ mであった。 EDTA法により、Mn含有混 を分析した結果、Mn含有量は58.6%であった。 【0034】上記y-MnO2と2、86mo1/Lの LiOH・H2O水溶液をLi/Mnモル比O、515 で湿式混合した。以下実施例と同様に乾燥・熱処理を行 った。

50 【0035】この試料に対し、Cuをターゲットとした

(5) 時開 2 0 0 2 - 5 3 3 2 1 (P 2 0 0 2 - 5 3 3 2 1 A)

X線回折、比表面積の測定および走査型電子顕微鏡写真 の撮影を行った。生成物のX線回折図はJCPDS:N o. 35-782のLiMn₂O₄と同様の回折パターン を示した。比表面積は2.4 m²/gであり、メジアン 径は22μmであった。

【0036】実施例と同様の手法でコイン電池を作製 し、充・放電試験を実施した。図5(破線)は、本比較 例のリチウムマンガン複合酸化物を正極活物質とし、L i 金属を負極としたコイン電池の放電曲線を示す。これ より、本比較例のコイン電池は、1サイクル目の放電容 10 のX線回折図。 鼠は117mAh/gであり、20サイクル目の放電容 量は81mAh/gで、放電容量維持率は69%であっ た。

【0037】実施例と比較例の比較から、明らかな様に 比表面積が100~300m²/gのε-MnO₂を原料 に葡萄状形状をもつリチウムマンガン複合酸化物を合成 することが可能であり、このリチウムマンガン複合酸化 物を正極活物質として使用したコイン電池は、y-Mn Ocを原料として同様の手法で合成したリチウムマンガ ン複合酸化物を正極活物質として使用したコイン電池と 20 は比較例の充・放電曲線を示す。 比べ、より高い初期放電容量を有し、サイクル劣化も少 ない。

[0038]

【発明の効果】本発明により、リチウムマンガン複合酸 化物の原料として平均二次粒径が50μm以下でBET 比表面積が100~300m²/gのε-MnOcを原料

とし、葡萄状の形状を有するリチウムマンガン複合酸化 物が提供でき、粉砕や繰り返し熟処理の工程無しに、 又、Mnを他の異種元素で置換することなしに、高い充 放電容量を有し、サイクル特性に優れた非水電解液二次 電池が供給できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 実施例で作製したマンガン酸化物のX線回折

【図2】実施例で作製したリチウムマンガン複合酸化物

【図3】実施例で作製したリチウムマンガン複合酸化物 のSEM写真。

【図4】 実施例及び比較例で作製したリチウムマンガン 複合酸化物を正極活物質として使用したコイン電池の模 式図。

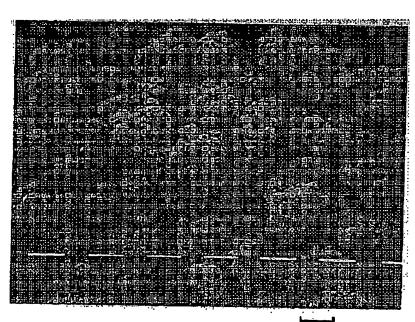
【図5】実施例及び比較例のリチウムマンガン複合酸化 物を正極活物質として使用したコイン電池の第1サイク ル目及び第20サイクル目の充・放電曲線を示す図で、 実線のカーブは実施例の充・放電曲線を、破線のカーブ

【符号の説明】

1及び2 ケース

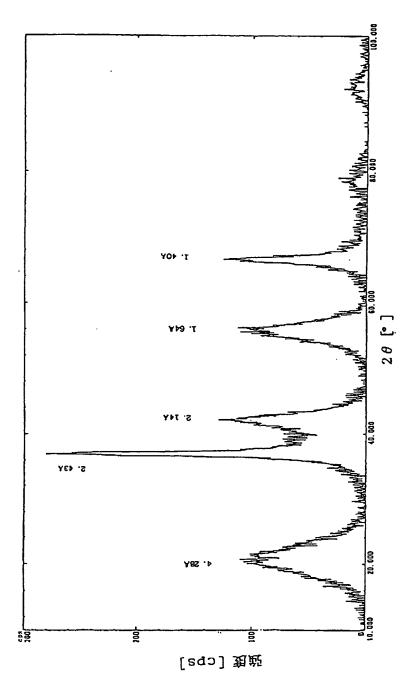
- 3 ガスケット
- 4 正極
- 5 負極
- セパレータ

[図3]

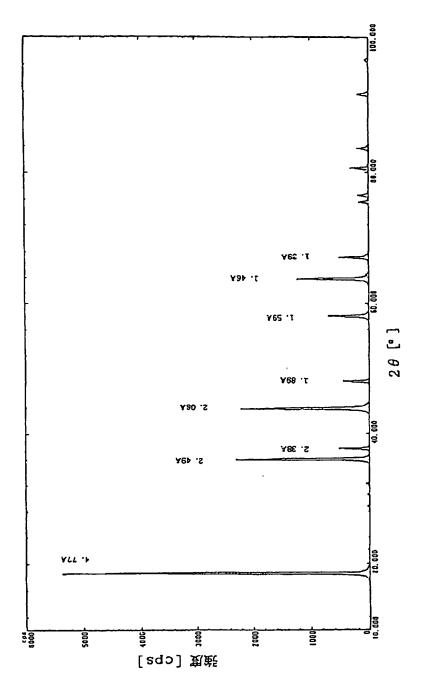


(6) 今開 2 0 0 2 - 5 3 3 2 1 (P 2 0 0 2 - 5 3 3 2 1 A)

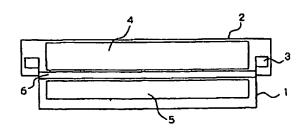




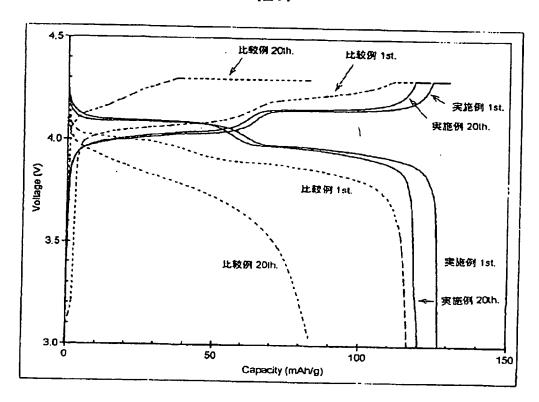
【図2】



[図4]



[図5]



フロントページの続き

(72)発明者 中原 清 山口県宇部市大宇小串1978番地の25 チタ ン工業株式会社内

(72)発明者 中島 良介 山口県宇部市大字小串1978番地の25 チタ ン工業株式会社内 F ターム(参考) 4G048 AA04 AB01 AB05 AC06 AD04 AD06 AE05 5H029 AJ03 AJ05 AJ14 AK03 AL12 AN03 AM05 AM07 BJ03 DJ16

> HJ02 HJ05 HJ07 HJ14 HJ19 5H050 AA07 AA08 BA17 CA09 FA17

GA02 HA02 HA05 HA07 HA14